

## 市長記者会見記録

日時：2024年6月18日（火）14時00分～14時20分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

### <内容>

#### 【市政一般】

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願ひします。

#### <川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例について>

【朝日（幹事社）】 朝日新聞でございます。

7月1日でヘイトスピーチ禁止条例が全面施行されて4周年ということになります。この間の振り返りと今後の課題ですね。制定当時よりも想定以上にネット投稿の数が多くて、なかなか削除要請に追いついていないという現状がある上で、今後、条例の改定の必要性も含めてどういうふうにお考えなのか、お聞かせ願えればと思っております。

【市長】 ありがとうございます。条例に規定されているような差別的言動はなくなってきているということで、条例の制定の一定の成果が出ていると思っております。一方で、今御指摘いただいたように、インターネット上の人権侵害というのは、数も含めて増えているということで、深刻な問題だと捉えています。

インターネット上の話というのは、市域を当然越えていくわけですから、国のほうで、ネット上の人権侵害についてどういうふうに扱っていくのかというのは、もっと議論があっと思っていますが、本市としては、今でき得る限りの対応をしっかりとやっていくということだと思っています。

【朝日（幹事社）】 どうもありがとうございました。

時事さん、どうぞ。

【時事（幹事社）】 幹事社の時事通信です。

時事からは特にございません。

【朝日（幹事社）】 各社、どうぞ。

#### <市制100周年及びかわさき飛躍祭について>

【東京】 東京新聞です。

市制記念日前最後の市長会見ということになるかと思しますので、これまでいろんな場面で語ってきていただいているんですけども、改めて、これまでの川崎市とこれからの川崎市への思いですとか、あと、これから飛躍祭ですとか記念式典なども控えていますけれども、それらのイベントへの思い、市民の方に伝えたいことですとか、改めて伺えますでし

ようか。

【市長】 まず、7月1日に市制100周年という大きな節目を迎えるに当たって、改めて川崎市の歴史というものに市民の皆さんと一緒に向き合いながら、私たちの先人たちに感謝して、そしてこれからまた新しい川崎をみんなと一緒に創り出していこうというような、そんな1年にしていきたいと思います。

もともと5万人から始まったまちが、今155万人という大きな発展を遂げていくということで、多くは川崎市内で生まれ育ったということよりも、むしろ市外、県外、国外といった、いろんな新しい人たちを受け入れてきた人々や、あるいは文化というものの、新しいものを受け入れてきた受容性と、それから変化に寛容な風土というものが私たちのまちの発展を支えてきたんだと思います。こういったものに改めて私たちは価値を見いだしながら、多様性をこれからも大切にしていって、そんなまちの歩みをこれからまた、101年目からの歩みを始めたいと思っています。

とかく市制記念日、市制何周年というと、行政の式典なの？ みたいに思われる風潮はありますが、そうではなく、1年間を通じていろんな様々な機会が、実行委員会形式ですとか、あるいは団体ごとですとか、あるいは市と団体ですとか、いろんな組合せで参加できるイベントなどが行われますので、改めて、一人でも多くの市民の皆さんに「知って、関わって、好きになる」というプロセスを体感していただくような、そんな1年にしていきたいと思っています。

自治体、自分たちの地域を「知って、関わって」という形になっていくと、自分たちに愛着も湧く、そしてさらに自分たちのまちの一員として、ただ暮らしているだけではなくて、市民の一人として地域にどう関わっていくかということを自ら発見していくような機会がみんなと一緒に提供できればいいなと思っています。

以上です。

#### 《資産公開制度について》

【東京】 ありがとうございます。

ちょっと話が変わりまして、7月に資産公開がされるということで、今回の対象となる補充資産ですとか所得についてではなくて、一般的な制度として、例えば公開の在り方ですとか項目が今の時代に合っていないんじゃないかという意見もあるようですけれども、公開の対象の政治家として、この制度についてどのように感じていらっしゃるか、お聞かせいただければと思うのですけれども。

【市長】 毎回、資産公開の記入の時期になって、何も特に増えるものもなくという感じで、変化がないので、何でしょう、何なんだろうなという思いはあります。新聞記事を見て、資産公開、各種議員の、国会、県会、市会とかというものも出ていますけれども、読者としてというか、あれからすると、この人、資産をいっぱい持っているのねとか、その程度しか思わないので、一体これは何なんだろうと正直思っています。何を透明にするのかがよく分からないというか、条例があって、対象となっている人間からこの制度がどうのこうのと言う

のも変な話なんですけれども、そもそもこれ何なんだろうなというのは、ちょっとよく分からないというのがあります。

例えば、政治家によっては、御家族の資産が発表されてというのもありましたけれども、ほとんど興味本位の対象みたいな話になっていて、透明性と何の関係があるんだろうというの、感覚的には思っています。

それが市民が求めていることなのか、あるいは制度の趣旨なのかということについては、条例の施行側の人間と対象になっている人間と、私両面あるので、コメントが非常に難しいんですが、今の聞かれ方からすると、多分対象者としてどう思っているのかということだと思うので、対象者からすると、まあ、何だろうなという不思議な感覚を持っています。

市民の皆さんが、あるいは透明性を確保するというのが多分目的なんでしょうけれども、副業しているわけでもなく、親族、妻が働いているわけでもなくということから考えると、何だろうという不思議な感覚を持っております。

以上です。

【東京】 個人の資産とかをここまで公にしなきゃいけないことへの抵抗感とかはないけれどもという感じでしょうか。

【市長】 何でしょう。例えば、私の預貯金の全てを見て、例えばですよ、何だ意外とないな、何に使っているんだみたいな、いわゆる生活の全てみたいなものを見るということが…。だから、興味の対象でしかないと扱われてしまうのは、そもそも制度をつくった立法趣旨とは異なるのではないかなと思います。何かそう思いませんか？ 何々さんがこんな土地を持っているとか、農地これだけ持っています、建物こんな持っていますということ自体が、市民にとって何の有益な情報、透明性をもたらす情報なんだろうかということに違和感を感じます。

【東京】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

【産経】 産経新聞です。

今の質問で、今は対象者としての回答だったということなんですけれども、施行者としてはどのようにお考えで、あるいは今の話を聞いていると、条例改正とか何か提案するとか、何かあればお願いします。

【市長】 特に改正をするほどの何かモチベーションがあるかということ、そうでもないの、これはこれで淡々としていくべきなのかと。あるいは、本当に市民の皆様が、条例を、もっと透明性をどういうふうに高めるとか、もっとこんなことが知りたいんだとかという、そんな事実があれば、改正ということもそれはあるんだと思いますけれども、そのような立法事実は僕は聞いたことがないということからすると、施行者としては何か変更を加えるつもりはありません。

【産経】 そうすると、やっている意味とかがいま一つよく分からないけれども、続けていくと。

【市長】 そうですね。あえて変更するかと言ったら、制限していくのも変な話じゃないですか。公にしていくって、何をこれ以上公にするのかということもあるので、淡々とやっていくということでしょうか。

【産経】 ありがとうございます。

#### 《市制100周年及びかわさき飛躍祭について》

【読売】 読売新聞です。

6月29日の飛躍祭があと大体残り2週間だと思うんですけど、チケットの売上げ状況としては、市長としては、今現状どういうふうにお考えでしょうか。

【市長】 まだ完売ではないと聞いているので、もうちょっとPRに努めていきたいとは思っていますが、どうなんですかね。

【読売】 何かラストスパートとしての周知とか、その辺は何かありますか。

【市長】 この段階に来ると、もうロコミのあれなのかなという気もします。一定程度売れているとは聞いていますから、あんまり、そんなには心配していないという感じです。

【読売】 ありがとうございます。

#### 《給食費について》

【神奈川】 神奈川新聞です。

給食無償化の、この間、文科省のほうも発表されましたけれども、川崎市は無償化にはなっていないんですけども、その辺、市長として今の実態と、この間の文教委員会とかでも、値上げのほうももう検討を始めているという話も出ていましたけれども、その辺含めて、今どういうふうにしていくのか、教えていただけないでしょうか。

【市長】 やや今の質問、正確性を欠いていませんか。

【神奈川】 すみません。

【市長】 大丈夫でしょうか。

【神奈川】 値上げも検討しているなんていう話が出ていたと思うんですけども。

【市長】 というか、今現実、これだけ食材費が上がっているということは事実です。これについて、基金があるかと言ったら、もう非常に厳しい状況になってきているということですから、この状況をしっかりと保護者の皆さん、子供たちも含めて知ってもらうということは大事だと思います。

その上で、私たちが大切にしていきたいのは、ずっとこの中学校給食を始めてから、小中合わせて健康給食ということを目指してきましたので、質を落としていくということは、誰も僕は求めていないと思っています。要するに、値段を据え置いて質を低下させていく、健康給食という看板を捨ててまでやるというのは、僕は誰も求めていない。そのための負担がどうあるべきなのかと。持続可能な給食、健康給食にしていくためにはどうあるべきなのかということを実況報告して、今後その対応策というのは早急に考えていかなきゃいけないという、そのタイミングにあると思います。まず、現状を知っていただくということから、しっかり始めないといけないのではないかなと思っています。

【神奈川】 安易に値段が上がっているから、給食費もちょっとプラスしていいですかみたいなものということですか。

【市長】 基本的には、食材費は、受益者、保護者負担という形になっておりますので、そういうことだと思います。今、物価高騰していて、食料費、すごい上がり方をしていました。上がってきて、ちょっと落ち着きつつはあるんですけども、今後のことを考えると、この状況というのが、丁寧な説明が必要だなと思うんですね。

これまでも一定のレベルは担保しつつも、やっぱり食品のバリエーションは、少しずつ少なくなっている、狭まっているという話も聞いていて、それは保護者——私も保護者の一人ですけども——からも聞くことはあります。そういったところをちゃんと、いい意味で是正していくことは大事だと思うんです。ただ、そこにちゃんとした理解というものをしてもらわないと。

上がっていく、しかし給食費は一定、じゃあどうする。もっと、質と言ったらあれですが、量とか、食材の幅を狭めるということは、いくらでも可能だと思うんです。いくらでも言ったら語弊ありますけれども。だから、どうやってそのバランスを取っていくかというのを丁寧に進めていかないと駄目なのではないかなと思っています。

【神奈川】 もう少し国も補助してほしいなというところにもなってくるんですか。無償化、子育て支援とか、そういうのを叫ばれている世の流れというところでは。

【市長】 確かに、子育ての世帯のところは、どうしてもいろんなものが、物価高騰、食料品もそうですし、様々なところに影響を受けると。その割には、まだ給与が上がっているというところではないので、その差は生じているんだと思います。その辺りすごく気になりますけれども、しかし、給食費だけの話ではなく、全体のパッケージで考えていくべきだと思うんです。それは、国としてどこがナショナルミニマムで、それは小児医療費の話とか、あるいはもろもろかかっている話というのをどう捉えるかということだと思います。

その中で、全部国で払ってくれみたいな、こんな無責任な話は僕はないと思っています。ですから、ここは国で、そして自治体ではこれで、あとは地方の工夫でとか、その組合せをやっつけていかないと、お金がないから全部国でやってくれとかという安易な考え方というのは、僕はちょっとおかしいと。受益者が負担すべきもの、国がナショナルミニマムとして定めてそこは担保していくもの、そして自治体でやるべきものというのは、冷静な判断、議論というのが僕は必要なんじゃないかなと思っています。変なサービス合戦が行われていることに、むしろ僕は非常に懸念している状況です。

【神奈川】 ありがとうございます。

#### 《東京都知事選挙について》

【朝日（幹事社）】 朝日でございます。

東京都知事選があるんですけども、目黒区長選のときは行かれたそうなので、今回50人以上立候補されるんですけども、特別市の問題とか、公約の通じる人がいれば、応援には行かれますでしょうか。

【市長】 今のところその予定はございません。

【朝日（幹事社）】 予定がないということで。

【市長】 はい。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 質問、ほかによろしいでしょうか。

よろしければ、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございます  
た。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

---

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した  
上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当